

## <コラム②> 那賀川治水の歴史

### ◆ 万代堤と古毛の水剝岩（通称：大岩）

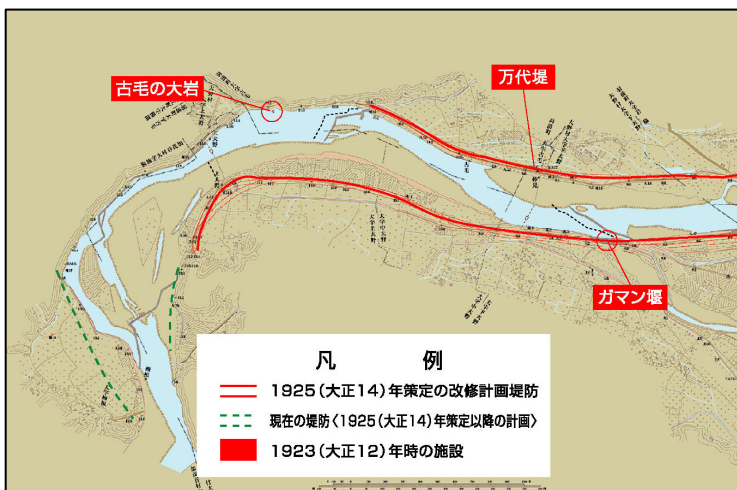
万代堤は、古毛村の庄屋、吉田宅兵衛充隆（3代目）が、1788（天明8）年に藩の命令により、私財を投じて工事に着手して以来、1872（明治5）年まで十数回にわたって改修されました。その規模は、長さ約1,070m、敷幅約44m、高さ約7m、天端幅約7mで、当時としては本格的な堤防でした。

万代堤は、毎年のように洪水によって破損することから、水はね効果を期待し、硯石山から落とし入れた巨岩は、“古毛の大岩”として、今も残っています（長さ約9m、幅約7m、周囲約23m）。毎年7月には、万代まつりが開催され、吉田宅兵衛らの先人の偉業に感謝し、苦勞をしのんでいます。



### ◆ ガマン堰

昔、岡川との分岐口に小洪水は断ち、大洪水の一部は越流させる低い越水堤が1869（明治2）年に完成しました。それが、ガマン堰です。洪水の度に「ガマンせい」と慰め合い、補修工事では重労働を「ガマン」したことから、この名がついたと言われています。1943（昭和18）年にガマン堰の締切が完了し那賀川と岡川は完全に分離されました。



那賀川筋平面図

ガマン堰平面図  
(大正12年頃)

